

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立船橋豊富高等学校
テーマ	「船橋豊富高校と地域連携について ～福祉コース・情報コース・文理コースの特色を生かして～」
実施形態	学校運営協議会を兼ねて実施 授業参観を併せて実施
日時 会場	令和5年11月7日（火） 13:30～15:00 図書館
参加者	保護者 1名 関係機関・事業所職員等 9名 教職員 8名 後援会会長 1名 計 19名
広報	・保護者への案内（配付物） ・学校ホームページ ・出席を直接依頼
内容・ 進め方	<工夫が見られた点> ・授業参観にて学校内や生徒の様子を見学して、学校の現状を把握した後に、テーマに沿った協議が行われていたこと。 ・校内の分掌の各主任から、生徒の様子や、各種行事の成果や進路状況等の詳しい説明の後に、地域連携の模索に向けた協議がされていたこと。
参加者の 意見	<テーマに関することについて> ・学校からの情報発信が十分に行き届いていないように感じる。福祉コースがあるということが分かれば、希望する生徒が多く集まってくるのではないだろうか。 ・地域の中で教材となるものは豊富にあると感じている。様々な取り組みができるのではないか。 ・生徒の部活動への加入が少なく残念だが、積極的に連携していきたい。
その他	<参観者の感想等> ・落ち着いた様子で授業を受けていて、学習にも前向きに取り組んでいる姿を見ることができてよかった。 ・教員が生徒とのコミュニケーションをとりながら、朗らかに授業を行っており、笑顔が見られる場面が多かった。 ・ICTの活用等が様々な場面で見られ、自分の受けていた教育の形と違ってきているのだなと実感している。広報の仕方に課題がある印象を受けたが、むしろ生徒に案を考えてもらうのも良いのかもしれない。 ・県立の高校では1クラス40名という基準となっている一方で、船橋豊富高校では十数名から20名程度でクラスが構成されている。生徒募集は課題でもあるが、少人数だからこそそのメリットもあると思う。

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	県立東金特別支援学校
テーマ	「東金市（北之幸谷地区）について知ろう ～安全・防災マップづくりを通して～」
実施形態	文化祭を併せて実施、ワークショップ
日時 会場	令和5年11月16日（木） 10:45～11:45 会議室
参加者	学校運営協議会委員 7名 生徒 4名 PTA 8名 本校卒業生 1名 教職員 3名 計 23名
広報	・保護者への案内（配付物、回覧等） ・学校ホームページ
内容・ 進め方	<p><工夫が見られた点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となった「あたりまえ防災隊」により、あたりまえ防災ソングや防災訓練、防災ウォークラリー等、自校の取組について説明がされていたこと。 ・参加体験型のワークショップにより、参加者が主体的に取り組むことができたこと。 ・ワークショップの際、ファシリテーターとして各グループに職員を配置したことで、活発かつ円滑な進行につながったこと。
参加者の 意見	<p><テーマに関することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらためて地域（避難所、冠水箇所が多い、渋滞が多い等）について知ることができた。また、地域防災の大切さについて考えることができた。 ・危険個所や避難場所について確認できたので、今後、避難の仕方や避難誘導等に生かしていきたい。
その他	<p><参観者の感想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あたりまえ防災隊」からなる生徒が、「あたりまえ防災ソング」等を地域に広めるなど、主体的に活動する姿が印象的だった。 ・災害図上訓練 DIG（Disaster Imagination Game）を用いてワークショップを行ったことで、自分たちの地域の特徴について多面的・多角的に協議することができていた。 ・ワークショップをとおして、地域と学校とが協働し、テーマに沿った地域防災について考えるよい機会であった。 ・大人と子供が対等に話したり、協働したりしており、非常に充実した取組となっている。